

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 伊集の木会 複合施設 新川の杜 放課後等デイサービス いじゅの木あらかわ			
○保護者評価実施期間	2026年 3月 9日 ～ 2026年 3月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	17
○従業者評価実施期間	2026年 3月 2日 ～ 2026年 3月 6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 5月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・複合施設内にある事業所という特徴を活かし、施設内の他事業所「高齢者デイ」や「グループホーム」と合同で行事、活動を行い、多様な経験の促進を図っています。 ・放デイ卒業生が進路として「就労継続支援B型事業所」を選び、「高齢者デイ」で実習を行うなど放デイ卒業後も連携、連動した支援を行っております。	・放デイ在籍時、本人、ご家族の進路希望を伺い、マッチした進路を選択できるよう複数の情報提供を行っている。 ・法人内事業所で就業体験の提供を行い、進路選択に向け、意識付けや適性の把握等に繋げている。 ・自事業所以外との交流を行い、さまざまな体験から「自己肯定感」「自己効力感」の向上に繋がるよう支援している。	・昨年度に引き続き、法人内事業所だけに限らず、他の放デイや就労に関する事業所との交流を促進してまいります。 ・他事業所との交流を持つことで卒業後の進路選択、決定に向けた支援や、地域移行に向けた支援を深めていけるよう努めます。
2	・学校、併用先放デイ、相談支援専門員等、関係機関との情報共有を積極的に行い、足並みを揃えた支援が行えるよう努めています。 ・送迎時の引継ぎや、連絡帳等のやり取りなど保護者さまとの情報共有も密に行い、日々の細かなケア、ご家庭と方向性を合わせた支援が行えるよう努めています。	・児童に変化があった際など、関係各所と情報を共有し、連動した支援が行えるようにしている。 ・相談支援専門員や学校へ積極的に働きかけ、担当者会議や個別の情報共有の機会を持ち、より方向性を合わせた支援ができるよう取り組んでいます。	・直接会う機会が少ない保護者さまと情報共有を深めるため、連絡用アプリの導入を検討しております。より支援内容、活動内容が伝わりやすいよう工夫を重ねてまいります。 ・児発管のみが担当者会議へ参加するのではなく、可能な場合は支援員も参加し、各児童に対する理解、共通認識が深められるよう機会を作ってまいります。
3	・常勤職員5名体制という特徴を活かし、職員間の密な情報共有を行い、連携した「チーム支援」を行っています。 ・各児童の特性、「個別支援計画」の内容、支援方針、課題等を理解し、全職員が共通理解のもと、支援を行っています。	・同じ時間帯で勤務する、常勤職員5名体制での運営を行っております。日々、行うミーティング時に児童に関するさまざまな情報のすり合わせを行い、方向性を合わせ、連携した支援ができるよう環境作りを行っています。 ・研修で学んだ知識などを共有するため、毎月職員全体で学習会を行い、スキルの底上げを図っています。	・夏休み期間等、全員が集合しての情報共有を行うことが難しい場合は、ローテーションで情報共有の機会を持つ、オンラインで情報を共有する等、工夫を行っていきます。 ・自事業所だけでなく、外部研修への参加や、他事業所も交えた学習会を行い、さらなるスキルアップ、モチベーション向上に努めてまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援プログラムの内容や、災害対応訓練などの各種対応の内容が保護者へ十分に浸透していない。 ・内容が十分に理解されていない状況がある。	・会う機会の少ない、情報共有の機会が不足している保護者さまに対し、情報が浸透していない状況となっている。 ・紙ベースの連絡帳だけではなく、メール等での連絡、共有を行うなど対応を変更したが、今後もさらなる改善が必要となっている。	・モニタリング面談時などご家族と情報を共有できる機会に、ツールを活用する等、支援プログラムの内容、各種取り組みの内容が伝わりやすいよう工夫を行ってまいります。 ・連絡帳での情報共有から、アプリを活用した周知、共有への変更を予定しています。よりお子様の活動内容、様子が伝わるよう工夫を継続してまいります。
2	・自事業所以外の子どもたち、地域の子どもたちとの交流が少ない。	・児童館や図書館を訪問し、活動を行う機会はあるが、個々の児童の特性（慣れない場所が苦手、集団が苦手など）もあり、地域の児童との交流は工夫が必要な状況。	・R8年度は、他放デイとの交流、合同行事を予定しており、普段と異なる集団での活動経験を重ねる機会を設けます。 - また、地域の学童を併用している児童もいることから、学童との合同活動、行事などを企画し、少人数から新たな交流を検討してまいります。
3	・ペアレントトレーニングの実施や、保護者間の横のつながりを強化する仕組み作りなど「保護者支援」の点で取り組みが不十分である。	・保護者交流会など保護者参加型の行事は設けているが、出席率は上がっていない。 ・個々の保護者様のニーズに合った行事や企画が行えていない現状がある。	・より多くの保護者さまのニーズに沿った企画、学習会や内容を見直した交流会の実施を行い、保護者同士のつながりを深め、保護者支援の取り組みを検討してまいります。